



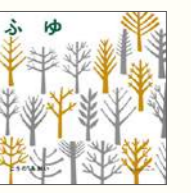


対象別おはなし会のプログラムを紹介いたします。  
ここで紹介する絵本や紙芝居は、ご家庭での読みきかせにもおすすめです。  
冬のブックガイドとしても活用してください。

### 行事絵本季節の絵本

#### 冬

**『ふゆ』**  
著/こうのあおい 1,500円  
(発行/アノニマ・スタジオ 発売/KTC中央出版)  
冬をイメージする色「白」を、静かに、たっぷり楽しむ絵本。南スイスの丘の上に住む著者が見たシーンが、もとになっているそうです。



#### クリスマス

**『さんかくサンタ』**  
作/tupera tupera 1,200円(絵本館)  
○、△、□。クリスマスに活躍する形は、どれでしょう? 丸い袋をしょって、四角いおうちに入ってきたのは、さんかくのサンタでした。



#### 干支・さる

**『おさるのまねっこ』**  
作/いとろし 1,500円(講談社)  
南の島に住んでいるサルたちは、楽しい毎日を過ごしています。でもたまに、違うものになりたくなって、まねっこ遊びをするそうです。



#### 紙芝居

**『てぶくろ』**  
ウクライナ民話 脚本/堀尾青史 画/箕田美子 1,600円(童心社)  
雪の上に、おじいさんが落とした手袋と、そこに集まる動物たち。おなじみのおはなしを紙芝居で。



#### 紙芝居

**『なぜ、せつぶんには豆をまくの?』**  
脚本/国松俊英 絵/藤田勝治 1,700円(童心社)  
節分に豆をまく理由を知ったら、豆まきにも一段と力が入ることでしょう。福が来ますように……。



(安富 ゆかり)

### プログラム 0・1・2歳

どこで/子育てサークル 所要時間/30分  
テーマ/寒さをふきとばそう!

このプログラムのポイント  
寒さに負けずに、みんなで楽しく遊びましょ! 雪について足あとを見つけたり、ポカポカお風呂も楽しいよ!

- 『くまちゃんとわんちゃんと…』**  
作・絵/ポール・スティックランド 品切れ重版未定(金の星社)  
楽しそうに動物がやってきます。クマさん、わんちゃん……、最後のページは鏡になっています。子どもたちを鏡に映してあげてみんなが仲間になったら、おはなし会のはじまりです。
- 『だれのあしあと』**  
作・絵/accototo ふくだとしお+あきこ 1,300円(大日本図書)  
真っ白い雪の上の足あととは誰のかな? お母さんたちも一緒にあてっこしてくださいね。
- 『やまのおふるやさん』**  
作/とよたかずひこ 1,000円(ひさかたチャイルド)  
しんしんと雪が降る山で、あったかいお風呂に飛び込む動物たち。心も体もぽっかぽかになりますよ。
- 『だるまさんが』**  
作/かがくいひろし 850円(プロンズ新社)  
雪だるまさんがお風呂に入ったら、だるまさんになったね! さあ! だるまさんの本を読みますよ。本を読んだら、みんなでだるまさんになって遊びましょう。ドテツ、プシュー。
- 『おたすけこびと』**  
文/なかがわちひろ 絵/コヨセ・ジュンジ 1,500円(徳間書店)  
たくさんのこびととさんが、働く車と大活躍。何ができるのかな?
- 『サンタのいちねん トナカイのいちねん』**  
作・絵/きしらまゆこ 1,200円(ひさかたチャイルド)  
クリスマスまでの1年間、サンタさんとトナカイさんは一生懸命に準備をしています。表のサンタと裏側のトナカイ、どちらから読んでOK! 読み方を工夫してみてください。最後のメリークリスマスは夢がいっぱいです。  
(伊藤知子)

### プログラム 未就学児

どこで/保育園・幼稚園 所要時間/15~20分×2  
テーマ/ぬくもりのプレゼント

このプログラムのポイント  
季節がめぐり、長いおはなしも聴いてもらえるようになります。外はどんなに寒くとも、絵本でほっこり。

- 『ねこのでんきや スイッチオン』**  
作/渡辺有一 1,300円(フレーベル館)  
夏に『ねこのはなびや』を読みましたね。冬の季節はでんきやさん。灯す明かりは町を彩る電飾です。
- 『おふとん かけたら』**  
作/かがくいひろし 850円(プロンズ新社)  
「たこさんたこさん」の節で歌うように読み、「おふとんかけたら……」と、充分間をとって次のページに。裏表紙の絵も楽しんで。
- 紙芝居『ゆたんぼくん』**  
脚本/おおたか蓮 絵/山本祐司 品切れ重版未定(童心社)  
次はお布団のお友だち「ゆたんぼくん」。ぽかぽかの紙芝居であたたまってください。
- 『くまのビーディーくん』**  
作/ドン・フリーマン 訳/まつおかきょうこ 1,400円(偕成社)  
クマのビーディーくんは眠れません。枕があればいいのかな? 大切な何かが足りないようです。

#### プログラムB (5歳児)

- 『ゆきの かたち』**  
監修/高橋健司 写真/片野隆司ほか 1,000円(ひさかたチャイルド)  
積もった雪のあんな形、こんなとけ方。1ページに複数写真のあるページも丁寧に。できればあとで手にとってもらえる工夫も。
- 手遊び『もちっこやいて』 『もちっこ やいて』より**  
作/やぎゆうげんいちろう 1,300円(福音館書店)  
冷えた手を動かして、こすって、食べるまね。
- 『ライオンのひみつ』**  
文/マーガレット・ワイルド 絵/リトバ・ポウティラ 訳/木坂涼 1,400円(国土社)  
深く強く祈ったとき、たった一度だけ叶う願い。図書館の入り口に座るライオン像の秘密とは。暗い色調の絵ですが、読後の心はあたたかです。  
(米原木ノ実)

### プログラム 小学校低学年

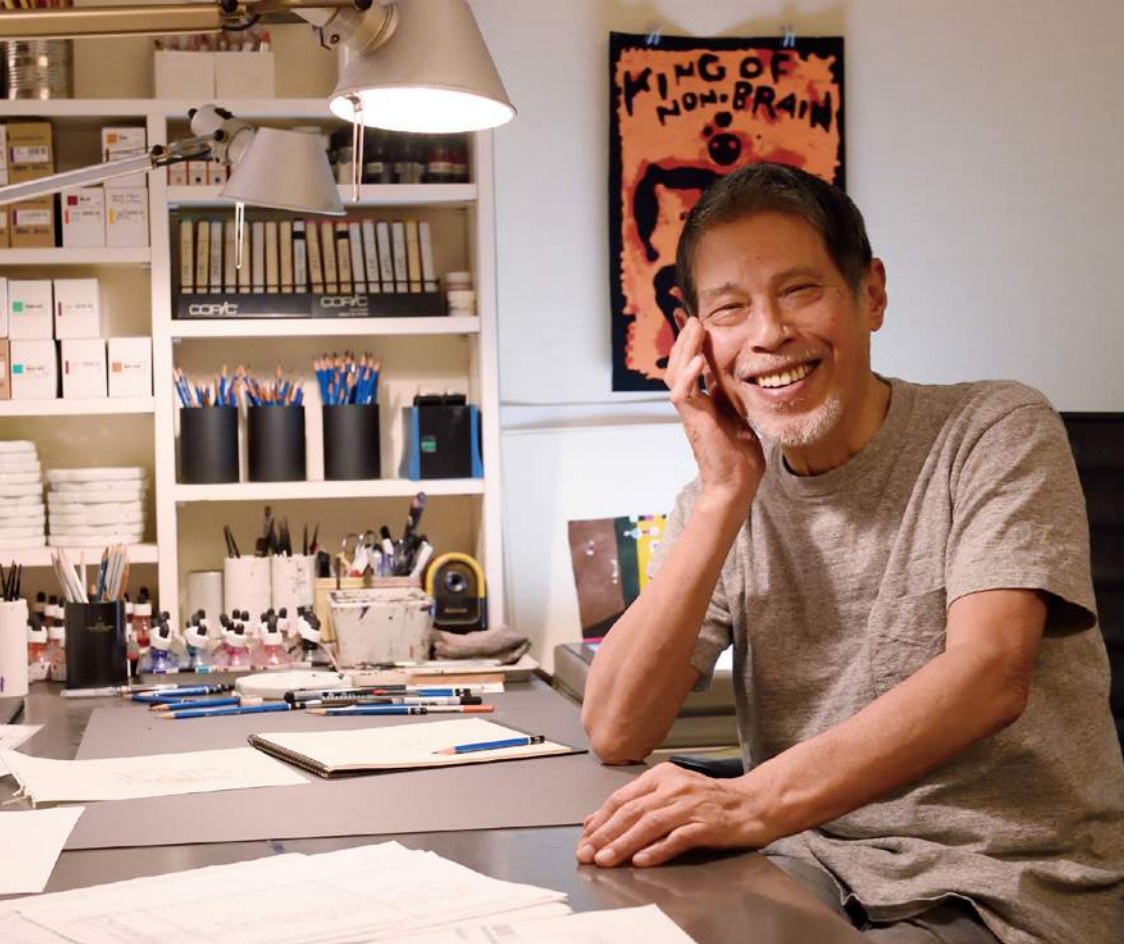
どこで/教室 所要時間/15分×2  
テーマ/寒くても、元気!

このプログラムのポイント  
寒い冬でもパワフルな子どもたち。冬の楽しさを感じる絵本とともに、みんなで元気な声を響かせていこう!

- 『ゆきがふったら』**  
作/レベッカ・ポンド 訳/さくまゆみこ 1,600円(偕成社)  
雪が降ったら、何して遊ぶ? 絵本の女の子とともに、銀世界のようにワクワクした気持ちを広げていきましょう。
- 『かずあそび ウラパン・オコサ』**  
作/谷川暁一 1,300円(童心社)  
参加型の絵本。耳慣れない不思議な数え方だけど、シンプルなルールなのでみんなすんなり理解してくれるようです。
- 『ニットさん』**  
作/たむらしげる 1,300円(イースト・プレス)  
編み物上手なニットさん。鮮やかな絵の色づかいと、ニットさんの手さばきに引き込まれます。そしてどンドン完成していく作品たちにもびっくり!

#### プログラムB

- 『つららが ぼーっとん』**  
文/小野寺悦子 絵/藤枝つう 800円(福音館書店)  
凍てつく寒さからできるつららも、次の季節が近づくにつれ、だんだんとけていきます。音のリズムが楽しい絵本です。
- 詩『くちびるたいそう』**  
まど・みちお詩集『こんにはまどさん』より  
作/まど・みちお 編/伊藤英治 絵/村上康成 1,500円(理論社)  
読み手に合わせ、フレーズごとに声を出して読んでみましょう。みんなで大きな声を出したあとは、体もちょっぴりぽかぽかに。
- 『小さいのが 大きくて、 大きいのが 小さかったら』**  
文/エビ・ナウマン 絵/ディーター・ヴィースミュラー 訳/若松宣子 1,400円(岩波書店)  
ようこそ、あべこべな大きさの世界へ! 大きさが変わるとちょっと怖いものもあって、ドキドキ。絵本に出てくる生きものたちにたくさん会える春も、もうすぐですね。  
(間片千春)



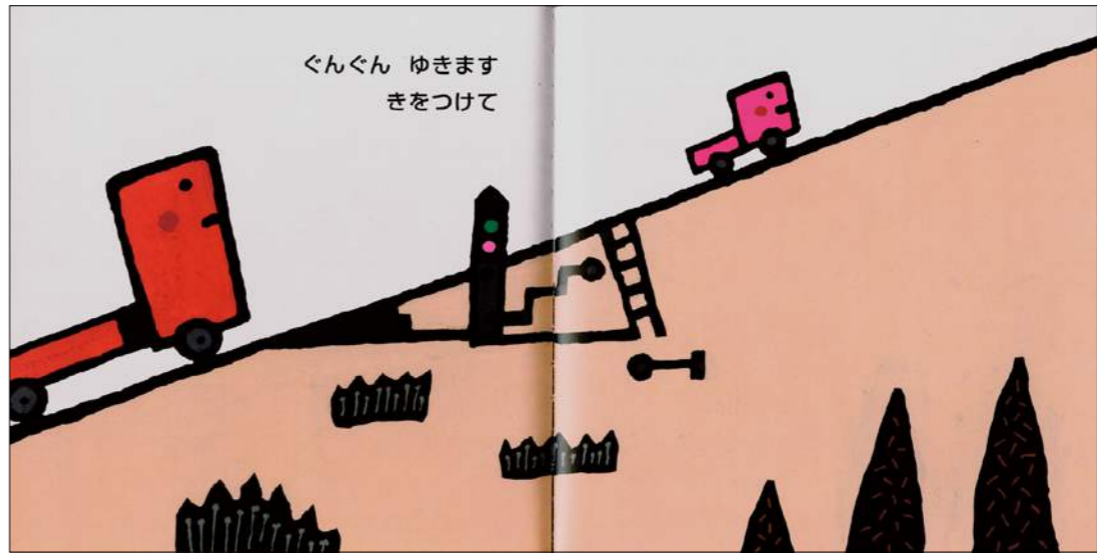
# 著作権保護コンテンツ

大人は子どもに本を読ませたがるよね。「感性が豊かになる」とか、「知性が磨かれる」とか言ってる。子どもにとってはいい迷惑。無理に読ませると、「拒本症」になっちゃうよ。子どもは、興味を持てば勝手に読むし、おもしろくなければ読まない。すごくシンプル。日本の場合、読書が教育と結びついているのが問題だと思ってる。教科書を強制的に読まされても楽しくないし、「このときのクマの気持ちを考えよう」と言われたら、「私はクマじゃないからわかりません」という話でしょ。そもそも書籍文化は、効果が目的なのではなく、おもしろいという気持ちの上で成り立つもの。それを、「本から何か学びとらせよう」なんて、教育的なものに置き換えると、本がおざなりになって、書籍文化はダメになる。オレ自身、読者にこう読んでほしいなんて気持ちはまったくないね。第一同じ本だって、読み手によって感想が違って当たり前。そこが楽しいところだもの。ある人が「五味さんの本は読者参加型ですね」と言っただけで、オレにとってそれは普通のこと。書き手50%で、読み手50%なんだよね。これからも、自分が楽しいと思うことを、やりたいように続けていくだけだよ。

本を教育と結びつけると書籍文化はダメになる



『いました』をモチーフにした読書イス、  
「i-mashita chair 01」。



サイン本プレゼント  
Webまたはアンケート用紙へ

『きをつけて』1・2・3  
作/五味太郎  
各1,000円(童心社)  
1巻の主役はトラック、2巻は飛行機、3巻は船。各見開きに添えられた「きをつけて」という言葉に守られながら、それぞれの乗りものが次の場所へと向かいます。「きをつけて」は誰が誰に向かって言っているのか。巻によって違う設定になっているのもポイントです。



撮影/澤田和廣



『百人一首ワンダーランド』  
著/五味太郎  
3,500円(東京書籍)

「つくっているうちに盛り上がりすぎて、3部作、しかも箱入りの一見豪華な本になっちゃった」。百人一首が五味さんの絵によってポップに変身。読み札・取り札のほか、歌が詠まれた時代風景を描いた絵巻と、歌の解釈や時代背景をわかりやすく説いた解説・エッセイの3部構成になっています。



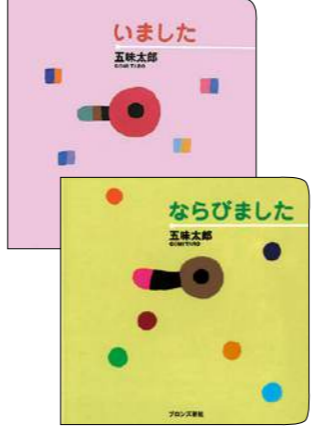
『らくがき絵本 五味太郎50%』  
作/五味太郎  
2,233円(プロンズ新社)

368ページにわたって五味さんの「らくがきワールド」が全開! 世界中で親しまれている作品ですが、「翻訳されるときらくがきってタイトルでいいのかが指摘された。そこではじめて、『そうか、普通はやってはいけないとされる行為だったな』と気づいたよ(笑)」。



『きんぎょが にげた』  
作/五味太郎  
800円(福音館書店)

1982年発売のロングセラー。金魚鉢から逃げた金魚は、カーテンの模様の中やキャンディの中に上手にまぎれこんでいて……。「金魚どこかな?」「あっ、ここにいた!」と、「絵さがし」が楽しい作品です。「今思い返しても、なぜこのタイトルにしたのか謎。オレ自身に逃亡願望があったのかも(笑)」。



『いました』  
『ならびました』  
作/五味太郎  
各900円(プロンズ新社)

「この本を、友人の家具デザイナーのワタナベヨウさんに渡したら、『不覚にも泣いちゃいました』とメールが来てね。それからしばらくして、『i-mashita chair』(写真上)をつくってくれたんだ。彼の中にある何かを動かしたんだろうな、きつと。絵本にそういう力があるってことがうれしいよね」。



『はなくん』  
脚本・絵/五味太郎  
1,900円(童心社)

今年7月に発売された、五味さんはじめての紙芝居。ちょっと食いしん坊な花と少女とのコミカルなやりとりは、心がじんわりとあたたかくなります。「紙芝居は上手な人が読むと本当におもしろい。ただ気になるのは、古色蒼然とした紙芝居舞台。いつかポップでカッコいい舞台をつくりたいね」。

作品あれこれ



東燃ゼネラル児童文化賞  
受賞おめでとうございます!!



今年7月、「国内外の子供文化に多大な貢献をしている」として、「第50回東燃ゼネラル児童文化賞」に輝きました。

# 『100万回生きたねこ』

# をどう読むか

佐野洋子さんの代表作に、『100万回生きたねこ』があります。

累計発行部数210万部を超えるこの絵本は、ロングセラーであるとともに多様な読み方ができる本として、

不思議な魅力を放っています。生や死に対してまだイメージがつきにくい子どもたちに、

この絵本をどのように手渡したらいいかも、意見の分かれるところです。

そんな『100万回生きたねこ』をどう読むか、さまざまな方に聞いてみました。

まずは、佐野洋子さん自身の言葉を、著書などから引用します

この絵本を考えるヒントになるかもしれません



『100万回生きたねこ』  
作・絵／佐野洋子  
1,400円（講談社）  
1977年初版。2000年に100万部突破。2013年に200万部突破した。発売以来38年たった今でも多くの人に愛されている。

イラスト／©JIROCHO, Inc. / KODANSHA

ゆるやかに崩壊していった家庭を営みながら、私は一冊の絵本を創った。一匹の猫が二匹のめす猫にめぐり逢い子を産みやがて死ぬというただそれだけの物語だった。「100万回生きた猫」というただそれだけの物語が、私の絵本の中でめずらしくよく売れた絵本であったことは、人間がただそれだけのことを素朴にのぞんでいるという事なのかと思わされ、何より私がただそれだけのことを願っていることの表われたった様な気がする。「二つ違いの兄が居て」より ちくま文庫『私はそうは思わない』収録

私たちは多分生まれた時から老成したものを与えられて生きて来たのではないだろうか。彼らがこまっしゃくれた子供だと思わない。どの子供の中にも子供の魂と大人の魂が同居している。私は子供が無邪気たとも恐ろしいとも思わない。子供とはそういうものだと思う。「やがて子供は大人になる」より ちくま文庫『私はそうは思わない』収録


わたしは、もし子供向けの絵本を作り続けて行くなら、ことばでないものを通じさせなくてはいけないですね。ことばはや絵を通して、ことばではないことばの背後に、絵ではない絵の背後の、世界の不思議さをわかり合うことなのだ。ことばで納得し合う、大人の世界で仕事するんじゃないかと本当によかった。「ことばは通じなくても」より 新潮文庫『さつがえらい』収録

あたし、猫、きらいなね(笑)。なんか、ほら、人間と人間でやると、すごく生々しくなることを、やっぱり、ああいうのができるっていうのは、なんていうの、ファンタジーとか、そういうことに多いでしょう。だから、そういう意味で、こう、媒介物として使っているだけで、それから、カタチとして、犬よりも、そりゃ、きれいなカタチしてるってことぐらいいかしら。「月刊絵本」1978年4月号／すばる書房より

<p>『<b>ヘンテコシャンプー</b>』</p> <p>スーパーマーケットで「ロケットシャンプー」を見つけました。洗うと頭がロケットになり、シャワーで流すとともに戻ります。カブトムシやペンギンのシャンプーも。お父さんが「かいじゅうガジラシャンプー」を使ったら、大変なことになりました。</p>  <p>作・絵/みやにしたつや 1,300円(学研教育出版)</p>	<p>『<b>おつきさまのかぞえうた</b>』</p> <p>夜のお空では、お月さまが歌っています。ひとつ、ふたつと続く、数え歌。いちばん星から始まって、動物やおもちゃ、おばけに夜行列車も出てくる、静かな、静かな数え歌です。10まで数えたら、おやすみなさい。</p>  <p>作/新井洋行 926円(えほんの杜)</p>	<p>『<b>みんな</b>』</p> <p>「いってきまーす」と男の子を乗せた車は、どっちゃん、ぐるぐる、どっぼん、ざっぶん、なめれー、ばくー！……と、不思議な生きものたちの世界を進んでいきます。あっち、こっち、どっち、躍動感にあふれたみんなと遊びましょう。</p>  <p>作/きくちちき 1,500円(WAVE出版)</p>
<p>『<b>はじめてであういきものふしぎ このあしだあれ?</b>』</p> <p>足は足でも、生きものたちの足の裏を見る機会は、あまりありません。しかしそこには、生きものたちが生活し、生きていく上の特徴が隠れています。アップになった写真をよく見て、その動きを考えてみてください。</p>  <p>編/ネイチャー&amp;サイエンス 1,300円(河出書房新社)</p>	<p>『<b>北極 いのちの物語</b>』</p> <p>ホッキョクグマが3000頭も住むという、ノルウェーのスパールバル諸島を真冬と初夏の2度訪れ、そこで生きる動物たちの姿をとらえた写真絵本。短時間に大きく変わる環境の中、おびただしい命のつながりが見えてきます。</p>  <p>写真・文/寺沢孝毅 1,500円(偕成社)</p>	<p>『<b>チンチンボンボさん</b>』</p> <p>「チンチンボンボ」は富山弁で「かたぐるま」のことです。お父さんに肩車してもらった男の子はうれしくて降りません。「降りるのいやや〜」と泣くと、根っこが生えてきます。富山の魅力と、のびやかな子どもたちが描かれています。</p>  <p>文/室井 滋 絵/長谷川義史 1,300円(絵本館)</p>
<p>『<b>こねこのジェーンダンスだいすき!</b>』</p> <p>子ネコのジェーンはダンスが大好き。バレリーナになるために、バレエスクールに入りました。仲よしのケロくんたちが遊びに誘っても、練習しなくちゃいけないからと、家に帰ろうとします。すると、楽しそうなみんなの声が聞こえてきました。</p>  <p>作/バレリー・ゴルパチョフ 訳/あらいあつこ 1,600円(きじとら出版)</p>	<p>『<b>おばけだじょ</b>』</p> <p>「おばけだじょたべちゃうじょ」とおどかさおばけに手足がはえてカエルになりました。ケロケロ。今度はヘビに「おばけだじょ たべちゃうじょ」とカエルがおどかされます。ハラハラドキドキの展開です。逃げられるでしょうか。</p>  <p>作/tupera tupera 1,200円(学研教育出版)</p>	<p>『<b>みて!</b>』</p> <p>「みて!」と元気な女の子の声。飛び込み板に立って両手を開いてジャンプ。すると、巨大なタコの頭にあたって、みごとに元の位置に戻ってきました。不機嫌なタコが姿を現しますが、女の子は平気で「みて!」と新しい技に挑戦続けます。</p>  <p>作/高島那生 1,300円(絵本館)</p>
<p>『<b>木の葉つかいはどこいった?</b>』</p> <p>木の葉つかいの仕事は葉っぱたちに飛び方を教えること。秋になると必ず来ていたのに今年はまだです。待ちきれなくて緑のハート模様がついた黄色の葉っぱが飛びました。ほかの葉っぱもそれぞれの飛び方で空へ。木の葉つかいはどうしたの?</p>  <p>作/ピーナ・イラーチェ 絵/マリア・モヤ 訳/小川文 1,600円(きじとら出版)</p>	<p>『<b>希望のダンス</b> <small>エイズで親をなくしたウガンダの子どもたち</small>』</p> <p>エイズで親を亡くしたウガンダの子どもたちは、貧しさの中で小学校にも通えません。そんな子どもたちが多くの支援を受けて読み書き、計算を学び、ダンスをきっかけに未来に希望を持ち始めました。世界を駆けるカメラマンが5年かけて取材しました。</p>  <p>写真・文/渋谷教志 1,500円(学研教育出版)</p>	<p>『<b>赤い糸</b>』</p> <p>ある晴れた日に、落ちていた赤い糸を巻いていくと、動物や人の悲しみや苦しみの声が聞こえてきました。さらに巻き続けていくと、彼らが幸せになる姿が見えてきました。やがて目の前に現れた太陽に、赤い玉をあたたかい光に変えてくれるよう頼みます。</p>  <p>文・絵/うさ 1,400円(絵本塾出版)</p>

『**ぼくのたからもの**』


ぼくはジュン、小学1年生。お母さんにもうすぐ赤ちゃんが生まれるというころに、ぼくの家にメジロが巣をつくって卵を産みました。妹のミミが生まれたころにはメジロもヒナを育てていましたが、ある日、巣は空になっていました。



作/鈴木まもる  
1,400円(アリス館)

『**だいすきなパパへ**』


ビーバーの男の子パークリーは、ママとふたりで海辺の小さな家で暮らしています。パークリーは流木で船をつくっては、もう会えないパパに宛てて海に流していました。ある日、流した船はすべてママが回収していたのを知り、その深い愛情に気づきます。



作/ジェシカ・バグリー  
訳/なかがわちひろ  
1,400円(あすなる書房)

『**あしによきによきによき**』


ある日、家の庭に落ちてきた大きな豆をポコおじさんが食べてみると、なんと、左の足が大きくなって、によきによきとのび始めました! どんどのびて、町までやってくると、別の足に会って……。35年ぶりの続編です。



作/深見春夫  
1,300円(岩崎書店)

『**まって**』


いつもの朝、急ぎ足のママに連れられた男の子は行く先々で興味を引かれ、「待って」を繰り返します。時間に追われ、つい急かしてしまう大人に、足を止めてみると日常の中にも小さな幸せがあることを思い出させてくれます。



作/アントワネット・ポーティス  
訳/椎名かおる  
1,300円(あすなる書房)

『**おかあさんのいのり**』


戦後70年がたちました。いつの世も母親は子どもを産み、育て、愛し、守ってきました。どうかこの子が銃を握ることにならないように。どうか世界中の子どもたちから、母さんと過ごす朝や夜をうばわないで。やがて子どもたちが親になれるように。



作/武鹿悦子  
絵/江頭路子  
1,400円(岩崎書店)

『**カメくんとアップルパイ**』


今日はサルくんのお誕生日パーティー。みんなが材料を持ち寄って、サルくんの大好きなアップルパイを作ります。カメくんは朝早く出かけますが、材料を持ったみんなに次々と追い抜かれていきます。やっと着いたカメくんは何を持ってきたのでしょうか?



作/谷口智則  
1,500円(アリス館)

『**アンドルーのひみつきち**』


ものづくりが大好きなアンドルー。次々に大仕掛けなものをつくっては家族に邪魔にされています。そこで、家から遠く離れた原っぱに自分だけの秘密基地をつくりました。すると、子どもたちが次々にやってきて、まるで小さな村ができました。



文・絵/ドリス・バーン  
訳/千葉茂樹  
1,300円(岩波書店)

『**どうぶつうんどうかい**』

今日は動物たちの運動会です。まずは体操、フラミンゴやペンギンが足をのびたり体をそらしたり。続いてジャンプの得意なサルやシロクマの出番です。かけっこに梅運び、相撲にのぼりっこ……がんばる姿に大きな拍手を送ってください。



写真/さとうあきら  
文/さえずさひろこ  
1,300円(アリス館)



もう読んだ?

新刊 100!!

2015年6、8月に発売された新刊絵本の中から、読みかきせにもおすすめの100冊を選びました。子どもたちとすてきな時間を過ごしてください。


定期購読者限定プレゼント

新刊絵本プレゼントの応募はアンケート用紙、またはウェブから。

※出版社五十音順  
 マークは乳幼児から、  
 は中・高校生も楽しめる本です。

『**アリのくらしに大接近**』


身近なアリの暮らしぶりを、テーマ別に写真とくわしい解説で知ることができます。農業をするアリ、植物に住むアリ、奴隷狩りをするアリ。日本のアリから世界のアリまで、多種多様なアリが登場します。役立つコラムと実験の紹介つき。



文/丸山宗利  
写真/島田 拓、小松 貴  
1,500円(あかね書房)

『**ざしきぼっこ**』

隣村のじいちゃんに出かけたけんたは、お茶碗とお箸を抱えている小さなふたりの女の子に会いました。だんごをあけると、なぜか姿を消してしまいました。それは、家に福をもたらすざしきぼっこという子どもたちでした。



作/武田美穂  
1,300円(あすなる書房)